

2023年6月



親切会

関東支部便り (No.23)

連絡先：〒101-0032

東京都千代田区岩本町 2-9-6

ゆいまーるひたち 4階

電話：070-3603-2172

メール：shinsetsukai-honbu@hdq.hitachi.co.jp

第23回支部幹事会を開催

6月21日(水)15時から第23回支部幹事会がゆいまーるひたち6階、大会議室で開催されました。まず、鈴木支部長より先週3年ぶり対面で行われた社員総会の概要報告<会長の交代など>と引き続きこの支部活動活性化への協力要請が行われました。

ついで幹事さんの HYSIS-FS が4月から牧野さんから市川さんに代わられた紹介と市川さんからの自己紹介がありました。

議事に入り新規加入として東京エコサイクル(株)さんが入会された報告・承認、ついで22年度の決算に伴う監査報告が鈴木(健)監事より行われました。(決算の概要は先の3月幹事会で報告、年度末を経ての監査実施)。

次に当支部として軌道に乗りつつある災害備蓄品の子ども食堂への提供活動について6月5日(月)に日立ビルシステムさんのご協力で実施した報告がありました。尚、同一企業さんからの提供の場合は2回目以降の覚書は簡易版としました。

何とんでも大きな課題はグループ会社の再編に伴う会員の減少と食堂閉鎖による歳末募金減への財政対策であり、これは支部の枠を超え社友クラブなど別団体への働きかけや現役の皆さんへのより積極的なPR工夫も必要ではないか、といった議論がなされました。

次回開催は9月20日(水)を予定しています。

心の叫びに気づこう!

徐々に社会問題として認知されつつあるヤングケアラー(young carer)について、最近驚きの調査結果に接した。小中高の学級に概ね1人か2人のヤングケアラーがいるとの実態である。ヤングケアラーとは「本来、大人が担うような家事や家族のケア(=介護や世話)を日常的に行なう、18歳未満の子供」を指す。2021年~22年にかけて厚生労働省が実施した調査では、小学6年生の6.5%、中学2年生の5.7%、高校2年生の4.1%がヤングケアラーに該当するとの報告になっている。ケアの内容や対応時間、負担度は様々だが、子供が自分の時間を持たず、学校生活、友人関係、ひいては進路や就職等に支障をきたすなど自身の人生に大きな影響を及ぼしかねない。一方でヤングケアラーの多くは介護や世話を自分の手でこなせば親(祖父母やきょうだい)孝行になると考えており、最初は当然の行動としつつも、次第に重い負担に巻き込まれる例が多数ある。また、その厳しい日常から脱したいと願いながら、誰にどう相談すべきかわからぬまま、不登校となり、自信喪失や生きる価値を疑問視する傾向にもなっている。更に睡眠不足による健康障害、周囲の理解不足から来るストレスもあって、自分を追い詰めてしまう例が多々見られる。声をあげられない苦しさは常につきまとっている。

家庭内でケアを受けている人への配慮や、孝行の一環としての受け止めが強いせいか、一般に、ヤングケアラーは大人の生活保護対象者よりも発見が難しいようだ。ただ、ヤングケアラーが深刻な状況に追い込まれないためには、何と言っても”早期発見”が重要である。とりわけ担任教師が素直に耳を傾けて相談に乗り、学校全体で情報を共有して柔軟な対応を進めるのが第一歩と考える。近年は教職員の方々向けの研修会、セミナーが増えており、適宜スクールソーシャルワーカー、

民生(児童)委員との連携も定着しつつある。更に神戸市、南魚沼市、川口市等々 先進自治体の支援策も拡充し、次第に全国規模への波及が期待される。加えて、長年活動している複数のNPOや、日本財団、キリン福祉財団の新しい動きにも注目が集まっている。

おりしも今年4月にこども家庭庁が発足しており、貧困や虐待等と併せてヤングケアラーも大きな課題として取り組みが強化されるよう願っています。

個々に直接関与する事はできないものの、私たち自身も既に身近にある問題として捉え、意識を高めて、ヤングケアラーを支える方策を検討すべき段階と考えます。



一般社団法人 親切会
関東支部のみなさまへ



今年度も、カムオン・シェシェへの寄附金をいただくことができ、大変うれしく、心強く思っております。

この度は、本当にありがとうございました。

コロナ禍もなかなか落ち着かないまま、日常が過ぎていきます。私たちは外国にルーツのある子どもたち、家族の支援をしておりますが、子どもは、あっという間に大きくなります。子どもたちの日本語教育、母語支援、そして家族へのフォローがまだまだ地域では足りていません。私たちも、自分たちだけでがんばるのではなく、地域に仲間を作り、学校や、行政を巻き込みながらこれからも「日本人も外国人も同じように地域で安心して子育てができるよう」活動を続けてまいります。

今後とも、応援していただけますと幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

2022.12.14

通訳・翻訳グループ カムオン・シェシェ スタッフ一同

カムオン・シェシェの意味
カムオン (Cám on) は、
ベトナム語で「ありがとう」
シェシェ (謝謝) は、
中国語で「ありがとう」

—同施設への訪問記—

- ・訪問時お会いしたIさんはベトナムの出身。2008年に来日し、3人のお子さんを育てているお母さん。日本語はボランティア教室に永年通い、最終的には日本語能力試験1級に見事合格。現在、カムオン・シェシェの中心的メンバーとして活動している。
- ・Iさんは仕事の傍ら週1回近隣の小学校に出向き、授業中ベトナムにルーツのある児童への通訳を行う入り込み授業支援を行っている。当該小学校では外国籍児童の割合が2割に達するにも拘わらず、教員の手が足りない為、Iさんのようなボランティアに助けられている状況であるとのこと。
- ・カムオン・シェシェは現場第一線で貴重な活動を実践しつつ、対応が遅れがちな行政に動いてもらうよう働きかけることも重要な使命の一つであると自覚している。外国人との共生は日本の社会が直面している正に今日的な重要な課題である。関東支部として今後もカムオン・シェシェを支援し続けて行けたらと思う。

(伊藤小一郎 記)